

Computer Report

Vol. 52 No. 2 2月号 (通巻 689号)

はじめの言葉

■年明け国会が始まった。野田総理の第一声は、よりによって元政権歴代のダメダメ総理の演説寄せ集め集だった。名付けて「仲良しこよし作戦」か。この一事から、現総理が説得しなければならないと考えているのは、国民ではなく目の前にいるダメダメ国会議員のお仲間だということが判った。とんでもない考え違いである。党内調和のあり方も含めて、現総理の頭にあるのは、お仲間のダメダメ議員連中の意見調整でしかないようだ。

■さらにお粗末だったのは、谷垣自民党総裁の対応演説だ。長年政権政党でありながら、ついに国民の負託に応えることができなかつたこと、とんでもない借金を創り出してしまった元凶政権だったことの反省もなく、お粗末な現総理の揚げ足取りで終わった。その演説ぶりといい、単なる混ぜっ返し内容といい、ジエンドだった。金輪際、自民党の政権政党への返り咲きはないと、国民をして確信させた瞬間だった。

■奇しくも、国民は抜本的な政治改革を望む気運にある。愛知県、大阪府に始まった新しい政治のうねりに国民の期待は大きく動いている。愛知／大阪だけでなく、旧来の借金漬けの地方政治から脱却しようとする動きは、各地の市町村レベルの首長によって展開されてきている。こうした地方自治レベルのエネルギーが中央政権を根底から揺り動かそうとしている。どうも国会にだけ、その空気の読めない連中が取り残されているようだ。

■齢 80 歳になりなんとという石原東京都知事ですら、新しいうねりを捉えているようだ。どこまで本当かは蓋を開けてみるまで分からないが、新党作りに一枚加わっているという。若いではないか。最早、既成政党間のパワーゲームを楽しんでいる余裕は今の日本にない。次の総選挙では、既成政党のすべての枠組みを越えた展開となることが待ち望まれる。議員の定数は是正すらできない現議員には、総退陣してもらおうほかあるまい。

■国民の側にも覚悟が必要である。既成政党の既得権益に群がる組織の解体が大前提である。4 世議員などと北朝鮮の金政権も真っ青の世襲制の選挙組織は、直ちに潰してしまうべきである。これは平安貴族時代の荘園と同じで、既得権益者が群がる温床組織の何モノでもない。チバン、カンバンなどとふざけている時ではないのだ。そこに群がるタカリ群団の一扫も含めて、しがらみを持つ世襲議員を日本政界から追放する必要がある。

■コンピュータ産業界を中核で担ってきたメインフレームメーカーの一つである NEC が、ついに数年前の人員整理に続いて、さらなる人員整理に踏み切ることになった。実は、他にも同じような状況にある企業が多い。決して NEC だけでないのだ。またオリンパスの赤字隠しが、企業買収劇の手数料支払いがきっかけで表沙汰になったが、同じような企業買収劇や粉飾決算が表沙汰になる企業が出てきてもおかしくない。

■政界だけでなく民間企業でも、着実に凄まじい勢いで世代交代のうねりが出てきている。新しいビジネスモデル創出の前夜を感じる。大手企業では死語になった「人材育成」を、実は中小零細企業が手掛けてきている。寄らば大樹の若者にシャブリ尽くされた大手企業が今着実に落日の時を迎える中で、新しい時代の担い手が育とうとしている。誠に頼もしい限りである。これこそが日本再生、第二／第三の創業の息吹である。(藤見)